

ジョロウグモ

とある日の午前中。廊下を歩いていて、ふと目に留まった光景。それは、ジョロウグモが、今まさに巣を張ろうとしている光景でした。正確に言えば、巣の補修を始めたところ、です。以前、クモの巣の美しさについて書いたことはありますが、クモが巣を張っているところをリアルタイムで見たのは初めてです。その、見事な職人技！大きくて美しい模様がありましたから、雌のジョロウグモです。（何でかな？・・・ピンポーン！雌は卵を産まなければならないので大きい、でしたね。）

さて、ジョロウグモは、前回紹介したコガネグモと並んで、よく見られるクモの一つです。大型のクモで、巣も立派なのでとても目立ちます。長い脚は、黒と黄色の縞模様。この組み合わせは、一般的には警戒色ですが、ジョロウグモに限っては、どうでしょう？そもそも、何に対して警戒を発しているか不明です。何しろ、本体は、巣の真ん中に陣取っていて、他の虫が気軽に近づけるわけありません。もちろん近づけば、餌になるだけです。一説には、同じ組み合わせのハチに擬態しているのでは？とありますが・・・。

さて、話を戻して。ジョロウグモの巣の張り方は、独特です。半円ずつを往復しながら上手に張っていきます。しかも、結構なスピードで！後ろに目がついているんじゃないか、と疑いたくなるほど正確に！長い後ろ脚を器用に使っておしりから出す糸を軽く押さえながらすいすい張っていきます。その脚の折れ曲がった角度は、まるで、「編み棒とそれを持つ人の手」そのものです。同じスピードで、同じ幅に。あまりに上手に張っていくので、しばし見とれていたら、ちょうど休み時間になった白井中の愉快的生徒たちが、一緒に見学です。巣の中央付近には、餌になった虫が、糸でくるくるまかれています。ジョロウグモは、獲物を巣の中央まで持ってきて捕食する習性があります。

余談ですが、昔読んだ本の中に興味深いことが書いてありました。クモや、カタツムリのごく生まれたて、小さいものは、風に乗って、上空を浮遊して移動することがある、というのです。偏西風に乗って結構な距離を移動するそうです。だから、その本には書いてありました。ぼーっと口を開けて上を向いていると、カタツムリや、クモの赤ちゃんが口の中に入ってしまふよ、と。口に入るかどうかは別にして、クモは、おしりから出す糸を上手に使って浮遊するのは本当です。窓の外を見てみれば、身近な不思議がいっぱいです！きょろきょろ探してみませんか！

